資料１

【2013 年度「山村再生担い手づくり事例集」づくりスケジュール（予定）】

～8 月 25 日（日）
取材先の連絡先・連絡方法確認（各地区担当者）

～9 月 6 日（金）
取材先への連絡と取材の可否確認（事例集事務局）

9 月 7 日（土）～9 月 27 日（金）
取材者の募集（事例集事務局）

10 月 1 日（火）～10 月 14 日（火）
取材先と取材者のマッチング（事例集事務局）
取材者への連絡（取材方法と取材先の通知）（事例集事務局）

10 月 15 日（水）～12 月 28 日（土）
事前検討会（事例集事務局、取材者）10／15（火）19：00～　於・豊田市職員会館第 1 部室
アポイントメント、聞き取り、レポート提出（取材者）
中間報告会（事例集事務局、取材者）11／26（火）19：00～　於・豊田市職員会館第 1 部室

1 月 6 日（月）～2 月 28 日（金）
振り返り（事例集事務局、取材者）
取材先への取材内容確認（取材者）
2012 年度山村再生担い手づくり事例集作成（事例集事務局）
交通費等精算（事例集事務局）

調査へ行く前に心にとめておくこと
（調査実施者マニュアル）

●流域担い手調査のミッション

①現場に行って、直接、現場の人たちの苦悩や喜びや課題に触れる　→　生の声を引き出す！

②その生の声をみんなで共有しよう！　→　「流域懇談会」のホームページにアップ

③課題をあぶり出す　→　集い、知恵の交換をする

●調査対象団体の条件

○組織・団体であること。

○持続可能な人間の暮らしと豊かな自然環境の保全を目指して活動していること。

●調査対象団体・調査実施者の選定までの手順

①調査参加者各自が「知られていないから広く知らせたい」「よく知られているけど、現場で実際に確認したい」などの団体について、推薦理由を記入・記名してリストアップする。

②各班において、ひとりをそれぞれチームリーダーとする。

③調査は複数人で行い、原則的に異なるカテゴリーで活動する者（＊）が主執筆者、推薦者は副執筆者または同行者として参加する。これはできるだけ取材内容に客観性を持たせるためである。

④主執筆者は希望者の中から話し合いまたは抽選などで決定する。で

⑤各チーム内の調査対象団体の変更や調査実施者の配置はチームリーダーが行い、デスク（戸田）に報告する。

＊異なるカテゴリーで活動する人を主執筆者に……森の人は川や海へ、海の人は川や森へ行こう！　新鮮な目と感覚で、客観的にとらえよう！

＜調査の心得＞

正しく、深く、心も伝える。

○実地対面取材で行う。必ず現地で代表もしくはキーパーソンと面接して取材する。

○ともすれば思いが入り過ぎたり、持論に誘導しがちなので、気を付ける。そのために異カテゴリーの者を含めた複数人で取材する。

●調査手順

○調査の趣旨を伝え、アポをとる。

○指定の「取材ノート」の項目について取材する。（別紙「取材ノート」参照）

○また、チームごとにオリジナルの質問を１問設定して、取材する。

○成果と課題を具体的に表し、「光と影」「喜びと苦悩」を象徴する写真を撮影もしくは借りる。

○結果を誰にでも分かるように、「取材ノート」と「報告ノート」（ホームページに掲載する書式）にまとめる。（別紙「報告書」参照）

○リーダーは担当チームの調査後の総括報告を行う。（別紙「チーム総括ノート」参照）

○デスク（戸田）へ交通費の請求をする。

（自宅～調査地までの交通費実費）

2013年度「山村再生担い手づくり事例集」取材先×取材者

取材先	取材者
根羽村森林組合、ねば杉っこ餅、根羽村猟友会	＊洲崎燈子、高橋伸夫
恵南森林組合、NPO法人東濃・森林づくりの会、NPO法人福寿の里自然倶楽部	＊近藤朗、蔵治光一郎、安藤里恵
NPO法人奥矢作森林塾、株式会社M-easy、旭木の駅プロジェクト	＊浜口美穂、眞木宏哉
とよた森林学校＋OB会、とよた都市農山村交流ネットワーク、おむすび通貨	＊沖章枝、長澤壮平、松井賢子
矢作川水系森林ボランティア協議会、green maman、農業法人みどりの里	＊蜂須賀功、後藤伸也
豊森なりわい塾、千年持続学校	＊丹羽健司
NPO法人中部猟踊会・三州マタギ屋、岡崎森林組合、おおだの森保護事業者会、じさんじょの会	＊井上祥一郎、西原　均

＊はチームリーダー

2013 年度「山村再生担い手づくり事例集」事前検討会 議事メモ

日時：10 月 15 日（火）19：00～
於・豊田市職員会館第 1 部室

出席者：安藤、井上、近藤、洲崎、高橋、丹羽、蜂須賀、浜口、後藤

●環境省中部地方環境事務所　生物多様性保全活動マップ作りのためのインタビューの経験から
http://chubu.env.go.jp/nature/mat/eco-map/index.html
近藤：1 日 2 団体以上取材するのは厳しい。活動現場に近いところで話を聞く。現場も見る。議論をする。取材結果は取材者の能力によって大きく異なってくる。
浜口：取材していく中で化学反応が起きる。
近藤：調査していく中で相手方が変わったのが答志島。実は同じグループでもメンバーが全員お互いの活動内容を分かっているわけではない。山部会もここでじっくり話を聞く機会になる。いいことが広がらない理由も探る。
浜口：聞き手と話し手じゃなくて対等な人間関係になること、雑談が大事。ペンも置き、録音機も切り、ノートも閉じると相手が初めて話しだすことがある。
丹羽：現場で話をするのも大事。いいことは行く前に予習して行くといい。
近藤：向こうが話したいこととこちらが聞きたいことは必ず違う。とりあえず一回行くしかない。子どものように何で？ と聞くのが大事。その意味でも立場が違う同士で行くことが大事。
浜口：想像や思い込み、先入観を廃して話を聞くこと。
丹羽：聞く過程が重要なので、客観性にはそれほどこだわらなくてもいい。
浜口：調査者同士で取材内容を共有し、やり取りする。書いてからでもいいが、取材直後にお茶を飲みながら話し合うのも大切。
近藤：一回こっきりの取材とせず、これを交流のきっかけにする。最初の聞き取りが訳分からない内容だったので、後で同じ団体に話を聞きに行ったケースもある。これをきっかけに新しい動きが始まることもある。

●取材者の心得
自分が話すより、相手の話を聞き出すことを心がける。

●リーダーの役割
取材先、同じチームのメンバーと調整し、取材日を確定する（土日でも OK）。確定したら同報メールに流し、取材に同行したい人がいれば仲間に加える。取材後は誰が調査報告を書くか割り振る。調査報告作成者のお尻を叩く。グループメンバーの旅費を精算し（集合場所までの各自の交通費と車を出した人の走行距離に基づく）、精算書を事務局の戸田さんに提出する。
携帯電話：080-6903-7679　　FAX 番号：050-3488-9128　e-mail：y-toda@m-easy.co.jp

●調査報告を書く時の心得
取材後は必ず内容を相手に確認すること。電話でもメールでもいい。

●経費について
旅費は報告会参加時に現金払いとする。レポート作成者には 5000 円が支給される。

矢作川流域山村再生担い手事例集　調査報告ノート

調査団体名		団体代表者名	
設立年		対応してくれた人の名前	
団体URL			
活動拠点		調査員	
取材日		レポート作成者	

＜活動内容＞

＜会のモットー（何を大切にしているか）＞

＜設立から現在に至るまでに変化したこと＞

＜連携している団体・専門家・自治体など＞

＜山村再生や、その担い手づくりに関わる具体的な活動＞例：小仕事づくり、山村・森林資源活用など

＜現在直面している課題＞

＜今後やってみたいこと＞

＜そのためにはどんな情報・人脈が必要か＞

＜チームオリジナルの質問＞

質問内容：

答え：

＜その他、伝えたいこと＞

（写真：キャプションも入れる）

2013 年度「山村再生担い手づくり事例集」中間報告会 議事メモ

日時：11 月 26 日（火）19：00～
於・豊田市職員会館第 1 部室

出席者：安藤、沖、蔵治、洲崎、高橋、丹羽、松井、戸田、西原、土屋

●進捗状況
＜洲崎チーム＞11/26 根羽村森林組合、11/27 根羽杉っこ餅、12/9 根羽村猟友会
洲崎：本日根羽村森林組合の取材をしてきた。参事の今村さんが分厚い資料を準備して新しい取組への意気込みや組合の内情など、詳しく話を聞かせてくれた。その資料の中に I ターンで入ってくる人向けの心得のような文章があり、「クロカンと懸垂で強い体に鍛えてモチベーションを維持せよ」「晴れていればできる限り朝早くから農作業をやるのがよしとされる。晴れた日に出かけるならいっそ朝一番に出てしまう」「山村部の選挙は気を使う。職場で統一推薦候補がいれば従った方が気楽」など、実体験に基づいたリアルなアドバイスが並んでいて面白かった。

＜近藤チーム＞11/8 福寿の里、12/11 恵南森林組合、12/10 東濃・森林づくりの会
安藤：福寿の里の代表お二人に話を聞いた。上矢作は新聞もコンビニもない町だがアライダシ原生林があり、併前から保全活動をしている。エコツアーと、冬は間伐体験もある。地域の問題は過疎で、若い人がいない。地域の人は原生林に興味が薄く、小学校の遠足で来るくらいで寂しい。上矢作を盛り上げていきたい。豊田や岡崎なども含め、流域圏で交流をもっていきたい。懇談会でも一度ぜひツアーを組んでほしいとのことだった。
蔵治：恵南森林組合は 12/11 の山部会の前、午前中に取材を行う。
丹羽：東濃・森林づくりの会は大島専務によると法人自体は休眠状態なので、正確には串原支部が取材の対象。

＜浜口チーム＞11/27M-easy・木の駅、12/8 奥矢作森林塾

＜沖チーム＞10/29 都市農山村ネット、11/21 森林学校・森林学校 OB 会・おむすび通貨
沖：どこも元気のある団体で、取材していて元気をもらった。森林学校の北岡さんは長期のスパンで活動していると話していて、目的は間伐できる人材の育成、森林所有者が林業の基礎知識を得ること、森の応援団づくりとのことだった。14 の講座があり、森の応援団コースの人気が高い。豊田の森づくりの仕組みがあってこその活動で、継続が力だが、まだ成果は何も見えていない。豊田の人口は 41 万だが受講生はまだ 1000～2000 人で、1 万人にしないといけない。ただ門戸を広げすぎてもよくない。2 万 ha の間伐をどう進めるかが課題。豊田では生態系を考えた森づくりがよく、林業家を求めるのは無理ではないかと思う。針広混交林をめざしたい。山主が子や孫に森を自慢できるようにしたい。北岡さんはどの写真も楽しそうに写っているがなぜかと聞いたら、自分が楽しくなければ楽しい会にならないからと言われた。
　OB 会は高部さんと山本シゲさんが対応してくれた。森林学校修了者の受け皿で、2010 年に発足した。見学や樹木観察、自然観察、間伐効果のモニタリングを行っている。この 3 年間で 70 人だっ

たのが 150 人に増えた。山主の参加をどうしたらいいかと考えている。山主向けの自力間伐講座があるが、山主の OB 会への参加はない。子ども連れのお母さん向けの自然観察をやりたいとのこと。
　おむすび通貨の吉田さんの話はとらえにくかった。貨幣経済がもたらす弊害を指摘し、雑多な助け合い、支え合いをサポートしたいと考えている。やろうと思ってとんがると地域から浮くので、やわらかな活動で進め、誰でも参加できるようにしたい。ただし大企業と外資系は駄目。地域は自分で作れると感じてほしい。一気にブレイクさせる必要があり、豊田市内で 500 店確保するために活動中。紙幣と電子マネーを両立させたい。ゆくゆくは融資もしていきたい。昔風の講を参考にしているとのこと。取材では写真は困る、名前も出さないでほしい、事例集の他の掲載団体と同列に扱ってほしくないと言われた。追加して話を聞きたいが 12/20 以降がいいとのことなので、少し遅れるかも。長澤さんの独自の質問の成果があった。
松井：おむすび通貨はなかなか入手できないのが課題と感じた。都市農山村ネットは 2012 年からいろいろな講座を開始し、都市と農山村の交流、都市部の人に農山村の魅力を伝え地域を活性化することをめざしている。モットーは住み続けたい、来てみたい、帰りたい、住みたい地域づくり。豊田市産業部や市内の小学校と連携しつつの高度な協働、小仕事づくりや資源の活用、次代の山村の担い手の教育をめざしている。課題は地域の特色を生かすこと。先々の生活を心配していない人は現状に満足している。一致協力して定住促進をめざしているとのこと。

＜蜂須賀チーム＞
11/25 みどりの里、11/26 グリーンママン、矢森協は未定

＜丹羽チーム＞なりわい塾・千年持続学校は未定
丹羽：取材には取材先の活動を知らない新しい若い人を連れて行く。

＜井上チーム＞11/19 猟踊会、岡崎森林組合・おおだの森・じさんじょの会は未定
西原：猟踊会の日浅さんは 2 時間話しっぱなしだった。当日はイノシシが 4 匹獲れて今日は大猟だと言っていた。懇談会の取材の後にテレビの取材を受けるとのことだった。

丹羽：課題、悩み、葛藤の部分を出すことが大切。取材がすんだら忘れないうちにレポートを書くといい。
蔵治：各団体にそれぞれ目的がある。山村再生の担い手づくりをめざした事例集なので散漫にならないよう、まとめる時に意識するといい。
丹羽：振り返りの時に再確認を。目的は多様でも切り口は担い手ということを示す。

●今後の予定
取材とレポート書き、取材先への内容確認をすませ、1/17（金）までに同報メールでレポートを送る。送られたレポートは全員が全員分の内容を確認する。振り返りの会を 1/24（金）の 19:00 から矢作川研究所 3 階の第 1 部室で行い、各自のレポートについて意見を出し合う。1/27 の山の地域部会でレポート（一部編集中）を資料として提出する。